

10 現実世界の歴史地理

「現代の地理学」第10週

歴史地理学と過去の3つの世界 (1)

▶ 歴史地理学

現在を形作った過去を対象とし、過去の地表面における様々な現象、地表面についての認識を研究

- ▶ 歴史学＝過去の社会の解明のために地表面を分析
- ▶ 歴史地理学＝過去の地理的事象・地理的認識や、地理的事象と社会との相互関係の解明を目指す

▶ 2

歴史地理学と過去の3つの世界 (2)

▶ 研究領域

- ① 現実世界(実在的世界)→歴史地理学の主流
- ② 認識された世界(主体的世界)→過去の人間にとって意味のある風景・場所、無意識の世界観(来週)
- ③ 抽象化された世界→過去の空間的モデル(GIS=地理情報システム)

▶ 3

景観復原図の作成方法 (1)

▶ 現実の世界の研究、特に前近代の景観復原研究

▶ 景観＝都市や農村の風景、自然に限らず人間の手が加わった風景。景観が形成される背後には経済・社会・政治・歴史のプロセスが存在。

- ▶ 特定の一時期における景観(時の断面)を一定の範囲で切り出し、その形態を復原する
- ▶ 景観史研究
一枚一枚の「時の断片」を復原しつつ、個別の景観要素の形態と機能の変化を統合的・動的に捉える

▶ 4

景観復原図の作成方法 (2)

▶ 鎌倉時代の東国の都・鎌倉の景観変遷研究(山村2009)

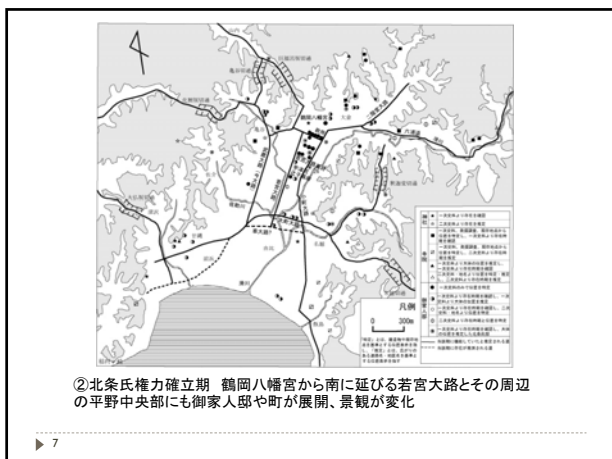
- ▶ 12世紀末に源頼朝が幕府設置
- ▶ 14世紀半ばまで約150年間、武家政権の首都
- ▶ 景観要素に関する情報の収集
 - ▶ 御所、政所、御家人屋敷、寺社、市、町
 - ▶ 信憑性の異なる多種多様な歴史資料を網羅的に収集、各要素の存在時期と位置を確認・推定
 - ▶ 一種の「住所録」作成
- ▶ 時の断面を設定→復原図作成
 - ① 源氏将軍期(1180～1225年)
 - ② 執権北条氏の権力確立期(1226～1247年)
 - ③ 北条氏の権力安定・衰退期(1248～1333年)

▶ 5



①源氏将軍期 北側の広い谷を東西に通過する六浦(むつら)道沿いと平野を取り巻く多数の谷の中に諸施設が分散

▶ 6



景観復原研究の展開 (1)

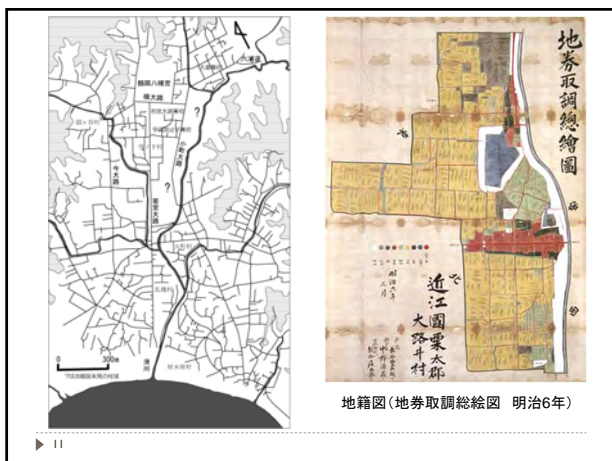
- ▶ 景観変遷のプロセス把握
 - ▶ 時の断面の厚み→景観変遷の動態把握を困難
 - ▶ 街路形態の形成・変遷プロセスの検討
- ①の時期＝東西道(六浦道)と二本の南北道(小町大路と武蔵大路)、若宮大路は敷設されていても市街化せず
- ②の時期＝若宮大路と小町大路の間に幕府施設・御家人邸が建設、不規則な小道形成
- ③の時期＝市街地は稠密化、高密度な敷地利用を示す街路「辻子(ずし)」が確認

▶ 9

景観復原研究の展開 (2)

- ▶ 地籍図の利用
 - ▶ ②、③の時期の急激な都市化は近代初期の**地籍図**で確認できる
 - ▶ 地籍図＝明治前半期における地租改正事業にともなって全国規模で土地登記台帳の付図として作成される
 - ▶ 筆界(田畑・敷地の一区画の境界)、地番界、字界(江戸時代までの村・集落の境界)、地番、地目(土地利用)、地名(小字・大字名)
 - ▶ 近代初期における地理情報を全国規模でほぼ同じ水準で記載する
 - ▶ **古い過去における景観の一部が地籍図に何らかの痕跡を残している**

▶ 10



景観復原研究の展開 (3)

- ▶ 他地域の景観を比較→景観の類型化・一般化
- ▶ 近世日本の城下町(矢守1970、1988年)

戦国期型 総郭型 内町外町型 町屋郭外型 開放型

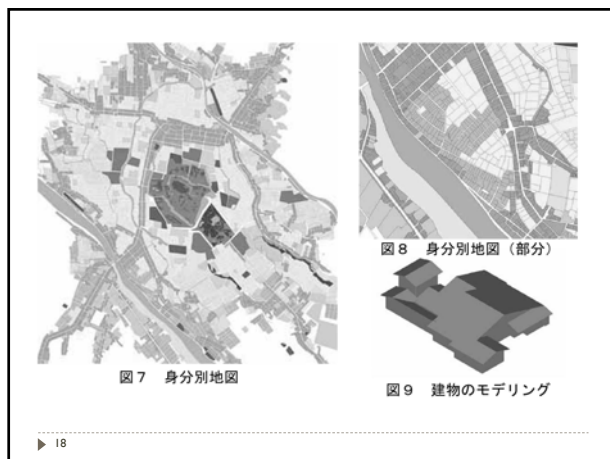
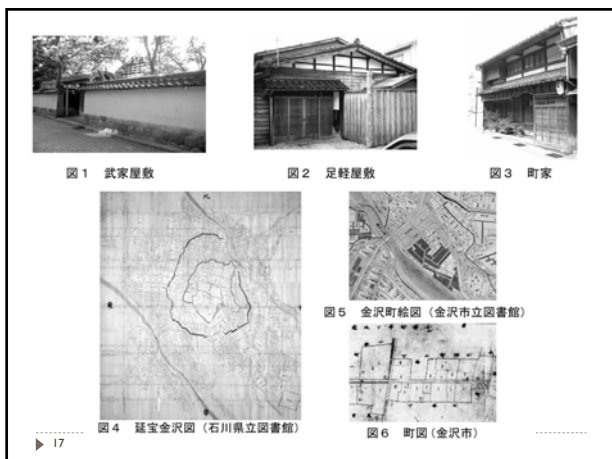
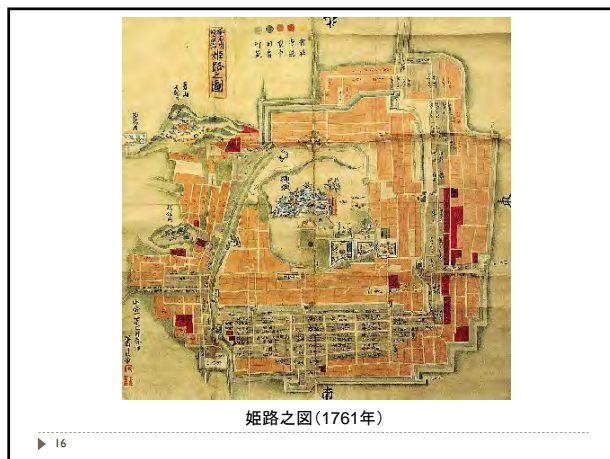
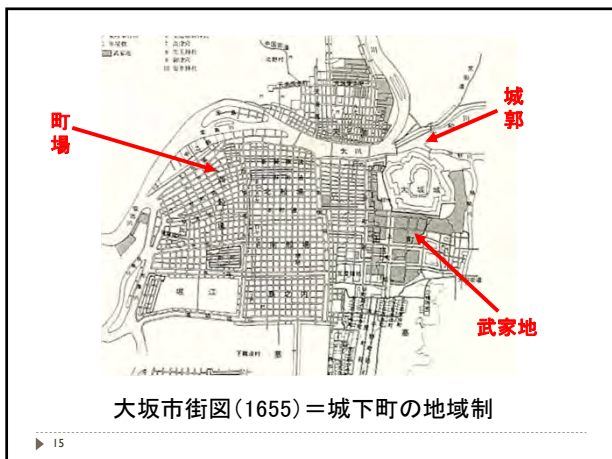
▶ 12

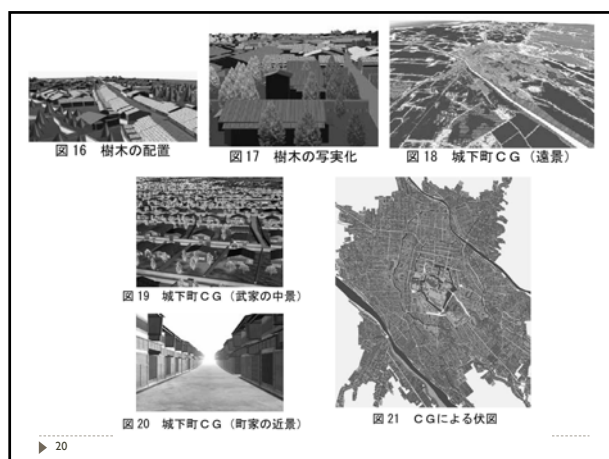
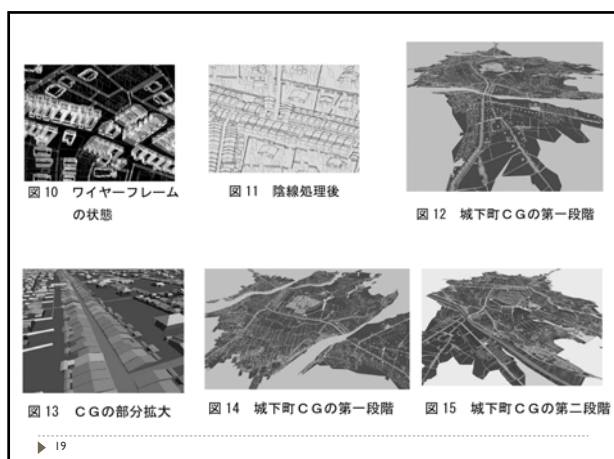


3D・CGによる城下町の復原(1)

- ▶ 金沢城下町や小田原城下町での試み
- ▶ 戦国期から江戸時代にかけての地方中心都市
- ▶ 高度経済成長期以後人口流出、都心空洞化→発掘・遺構調査→城下町の地理的構成が明らかに
- ▶ 既存の城下絵図類と対照→城下町を三次元的に復原
- ▶ GIS(地理情報システム=来週のテーマ)・グーグルアース・CGを用いた復原研究の例(建築学系)
- ▶ 景観シミュレーション→住民のアイデンティティ

▶ 14





3D・CGによる城下町の復原 (2)

- ▶ 景観構成要素(ゼロ次元=点)
 - ▶ 城、武家屋敷、足軽屋敷、町屋
- ▶ 城下町の空間構造(一・二次元=線・面)
 - ▶ 城下町身分別地図のデジタル化=街路網・宅地割など線情報抽出
 - ▶ 地域制=都市内の計画的・機能的分化←古地図(延宝城下図、安政町絵図、明治町図)使用
- ▶ 建物モデリング(面情報を三次元化)
 - ▶ 景観要素それぞれについて現存家屋・敷地形状を元に立体的に復原→各地区(地図上)に配置、樹木など実写化
 - ▶ ストリートビューも再現
- ▶ 城下町CG(空間的モデル)の現代的活用

▶ 21



文化財としての過去の景観

- ▶ 文化財保護法←歴史地理学の活用
 - ▶ 史跡と重要文化的景観
 - ▶ 対象とする遺跡を単体として捉えず、周囲の歴史地理的環境の中に位置づけ、全体の景観システムの中で学術的価値を見出す
- ▶ 文化的景観と歴史地理学
 - ▶ 文化的景観=過去における生活・生業に直結した景観だけでなく、人間と環境との長期にわたる相互関係の歴史から形成されてきた景観
 - ▶ 世界遺産: 石見銀山遺跡とその文化的景観
 - ▶ http://youtube-video-download.info/video/8vUd_0DXLSA

▶ 24

